

監訳者のことば

本書は、膨大な情報の中からユーザに適切な情報を提供するための情報推薦システムを体系的に論じた *Recommender Systems: An Introduction* (Cambridge University Press, 2011) を翻訳したものである。著者は、ドルトムント工科大学 (Technische Universität Dortmund) の教授 Dietmar Jannach 氏、クラージェンフルト大学 (Alpen-Adria Universität Klagenfurt) の助教 Markus Zanker 氏、グラーツ工科大学 (Technische Universität Graz) の教授 Alexander Felfernig 氏、クラージェンフルト大学 (Alpen-Adria Universität Klagenfurt) の教授 Gerhard Friedrich 氏であり、情報推薦システムの分野において顕著な業績を有している。これまで、推薦システムについての技法や解説については、サーベイ論文や学会誌などで取り上げられていたが、書籍という媒体で体系的にまとめられたものはなかった。本書は、情報推薦システムに関する基本的な技術から最先端のトピックまでを体系的にまとめており、情報推薦分野について、その概観を把握するためには良書であると言える。

1990年代に初めて情報推薦システムが登場して以来、学术界、産業界において多くの研究開発が行われてきた。2000年代には、Amazon.com の推薦サービスに代表されるように、推薦システムを実用化したオンラインショッピングサイトが数多く現れた。今日ではオンラインショッピングサイトにおいて推薦システムは欠かせない存在となっている。本書では、協調フィルタリング手法や内容ベース型推薦手法、知識ベース型推薦手法など、推薦システムを実装するための基本的な手法をはじめ、推薦システムの評価方法など推薦システム技術を網羅的に習得するためのトピックが項目ごとにまとめられている。また、推薦システム分野の最新動向に着目し、ソーシャル Web や消費者購買行動理論に基づく推薦システムなど、最近のトピックについても多くの文献と共に紹介されている。

対象とする読者は情報検索や情報推薦の研究者や大学院生を想定しているが、大学の学部生も理解できるように詳細な解説がなされているため、大学院や大学

監訳者のことば

の講義の教科書に適している。また、推薦システムの設計や開発を実務としている人や、この分野の調査を進めようとしている人にとって実用的な参考書として利用することもできる。今後、益々重要となってくる推薦システムの開発や実用サービスの運営のために、本書が少しでもお役に立てることを願う。

最後に、本書を出版するにあたり、多大なお世話を頂いた共立出版株式会社の信沢孝一氏、島田誠氏に深く感謝致します。

2012年4月

田中克己・角谷和俊